水戸市動物愛護センター きずなだより

Vol. 03
2024年度前期

御寄附いただきました皆様に水戸市動物愛護センターの取組等を紹介させていただく情報誌として，昨年７月に「きずなだより」を発刊し，今回が第３号となります。前回に続き，当センターの業務や新たな「ワンニャンきずなカード」などを御紹介させていただきますので，御一読ください。

令和５年度動物愛護寄附金の受入及び活用状況について

令和５年度につきましても，皆様から多額の御寄附をいただき，本市の動物愛護の推進のための事業に活用させていただきました。皆様の御寄附に大変感謝いたします。

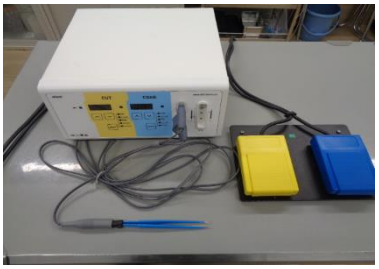
なお，いただいた寄附金は「水戸市動物愛護基金」に積み立てし，今後も寄附金活用事業として犬猫の幸せのために有効活用させていただきます。

＜令和５年度寄附金受入状況＞

寄附件数（件）	寄附金受入額（円）
109	2,627,834

＜令和５年度寄附金活用事業実績＞

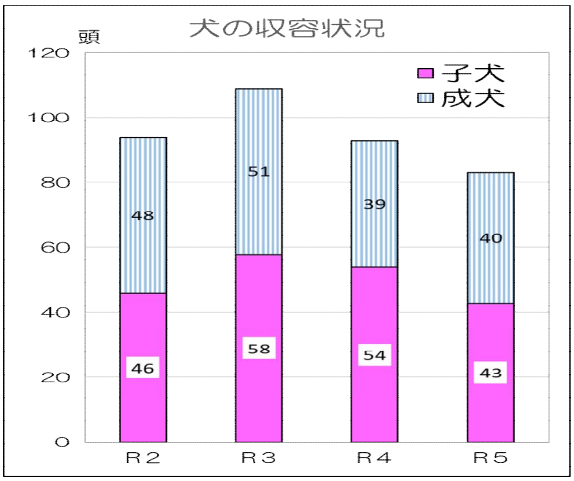
事業内容	事業費（円）
譲渡犬猫へのマイクロチップ装着※1	214,500
手術用医療機器の整備※2	803,000
飼い主のいない猫の集団不妊去勢手術※3	325,000
動物愛護啓発資材の作成等	107,276
計	1,449,776

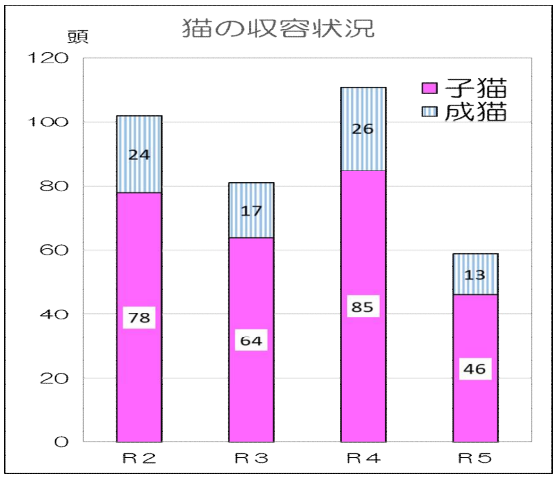


購入させていただいた電気メス

※１：譲渡犬猫の迷子防止対策として，マイクロチップを装着しました。
※２：譲渡する犬猫への不妊去勢手術等のための電気メスの購入により，出血を抑えながら，より安全かつ確実な手術が可能となりました。
※３：飼い主のいない猫，いわゆる野良猫のみだりな繁殖により，遺棄されたり，交通事故や外敵に襲われてしまうなどの不幸な子猫を削減するとともに，センター職員の技術研修を目的とし，センター内で民間獣医師による不妊去勢手術を実施しました。

令和５年度動物愛護センターの収容等の状況について





令和５年度の動物愛護センターにおける犬猫の収容頭数は，犬83頭（前年度比10頭減），猫59頭（前年度比52頭減）の計142頭（前年度比62頭減）でした。また，里親への譲渡頭数は，犬53頭，猫31頭であり，令和２年の開設時からの殺処分ゼロを継続しております。（交通事故等で回復の見込みがなく疼痛からの解放のための安楽死を除く）

猫の収容頭数が前年度から大幅に削減となりましたが，ボランティアや地域住民による不幸な飼い主のいない猫，いわゆる野良猫を減らすための不妊去勢手術の取組が徐々に拡大してきたことが大きな要因と考えられます。引き続き，地域猫活動推進事業や不妊去勢手術費補助金事業，寄附金を活用させていただいての集団不妊去勢手術事業等を通じて，市民の取組を支援してまいります。

なお，収容された成犬40頭のうち，飼い主への返還がかなわなかったものは14頭であり，その多くは，老齢や重大な疾患があったり，しつけに難があるなど，世話が大変になって放棄されてしまったと推測される犬でした。また，うち２頭は老衰や全身性の腫瘍によりセンターで最期を迎えてしまいました。

新たにペットを飼い始める方には，ペットの介護や病気の治療が必要になった時も責任を持って最後まで飼い続けることができるよう，自身の年齢や経済状況等を踏まえて慎重に判断していただくよう，今後もしっかりと普及啓発してまいります。

動物愛護センターの業務「狂犬病集合注射の実施」

世界中において，狂犬病ウイルスに感染し，毎年数万人の方が亡くなっているということをご存知でしょうか。日本においては，1956年以前は犬から人への感染で多くの死者が発生していましたが，それ以降は撲滅できたことによって，国民の間では狂犬病が恐ろしい病気だという認識が薄らいでいるかもしれません。

狂犬病は全ての哺乳類が感染し得る病気であり，人の場合は狂犬病ウイルスに感染した凶暴化した犬などの動物に咬まれることによって感染し，その後のワクチン接種を怠ると神経症状を引き起こしてほぼ100％死亡してしまいます。コウモリ，アライグマ，キツネ，マングースなどの野生動物に咬まれて感染することもありますが，私たちの身近な動物である犬への感染を防ぐことが重要であります。そのため，万一の発生諸国からの感染動物の侵入に備えて，狂犬病予防法において飼い犬の登録や年1回の狂犬病予防注射が義務付けられているのです。

コロナ禍以降，狂犬病集合注射を廃止する自治体が増える中，本市では，狂犬病予防注射の接種率の維持・向上のため，飼い主の利便性を考慮し，狂犬病集合注射を継続して実施しています。

＜国内における狂犬病発生状況＞

	1953年	1954年	1955年	1956年	1970年	2006年	2020年
死亡者数	3人	1人	―	1人	1人※	2人※	1人※
犬の発生数	176頭	98頭	23頭	6頭	―	―	―

※ 海外で犬に咬まれて，その後国内で発病し，死亡した症例

【狂犬病集合注射】

毎年４月から５月にかけて，水戸市内を開業獣医師と巡回し，公園，市民センター，自治会館等にて狂犬病集合注射を実施しています。今年度も県獣医師会，市民の皆様からご協力いただき，11日間の日程で135会場にて実施いたしました。

市民の方々からは「家の近くに来てくれて助かる」「犬を連れて長時間待つことなく，短時間で終わるのがいい」と，好評をいただいております。

なお，令和５年度の本市の狂犬病予防注射の接種率は68.4％であり，県全体の接種率62.8％を上回りましたが，全国平均70.9％（令和４年度）を下回っておりました。

引き続き，接種率向上のため，飼い主への狂犬病集合注射や動物病院での接種を呼び掛けながら，法令遵守を徹底してまいります。

犬の譲渡会を開催しています

センターでは，多くの方に保護犬・保護猫について知っていただき譲渡に繋げるため，市内で開催される各種イベントにおいて犬猫の譲渡会を行っています。

本年４月以降では，５月25日に七ツ洞公園で開催された「七ツ洞マルシェ」において，子犬の譲渡会を開催しました。当日は市内外から多数の方にご来場いただき，子犬たちの様子を実際に見ていただくとともに，センターからの譲渡についてご案内させていただきました。

譲渡会に参加したのは，約３ヶ月齢の子犬３頭です。「ゆきお」と「きく」は４月21日のアイフルホーム水戸店（住宅展示場）での譲渡会に引き続いての譲渡会の参加となり，「ゆきお」は来場者に囲まれても臆することなく，尻尾を振って愛嬌を振りまいていましたが，「きく」は相変わらず緊張して固まった状態でした。

３頭とも，見た目も性格も個性があり，来場者に可愛がっていただきました。

さて，センターの子犬の譲渡ですが，３ヶ月齢よりももっと幼齢の時期に譲渡した方が，見た目もより可愛いし，里親が見つかりやすいのではと疑問に感じる方もいると思います。

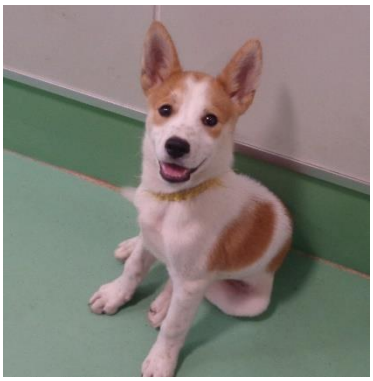
犬については，生後８週齢までの幼齢期の社会化が非常に重要であり，その時期に親や兄弟と過ごし，犬社会のルールやコミュニケーションを学び，咬むときの力加減やあいさつやじゃれ合い方を学ぶことが必要なのです。社会化の時期を疎かにしてしまうと，成犬になった時に問題行動を引き起こす可能性があるため，法令ではペットショップやブリーダーへの56日齢の販売規制を行っているのです。

このため，センターでは，社会化の時期を大切にし，その時期を過ぎて，混合ワクチンを接種し，リードを付けた散歩に少し慣れてから里親の募集を行っています。

譲渡会に参加した子犬たち

もふ（譲渡が決まりました）

きく（譲渡が決まりました）



ゆきお(譲渡が決まりました)

譲渡にまつわるエピソード

当センターに保護される犬猫の経緯は様々ですが，1年半前に，賃貸アパートの住民が，ゴミ屋敷の室内で犬猫を飼っていましたが，突然，飼い主の行方が分からなくなり，その犬猫が屋外に放り出され，隣の部屋のドアの前で助けを求めるような声で犬が鳴いているという相談を受け，当センターで保護した1頭の成犬について紹介します。

この子は，推定7歳ほどの雑種犬でしたが，散歩にはほとんど連れ出されることなく，ゴミが膝上まで堆積した室内で過ごしていたようで，また，鳴き声対策なのか口輪を付けていた痕が明瞭に残っている状態でした。人に対する警戒吠えが激しく，人が近づくと歯をむき出して吠え続ける状況であり，心を閉ざした状態で，職員も触れることが難しい状態でした。飼い主以外の人と接する機会が殆どなかったことによる，人に対する恐怖心と不安感が強いことが原因による行動だと思われました。世話を続けることで職員には徐々に心を許しはじめてきましたが，世話をする職員以外はなかなか心を許してくれず，譲渡までのハードルはかなり高く感じていました。

不特定の人への恐怖心等を解消するために，譲渡会に何度が連れて行くのですが，人が近づいたり，予想外の動作に反応して吠えたり，特に小さい子どもを目にする機会がなかったためか，子どもの大きな声と激しい動きに敏感に反応してしまう状況であり，譲渡会に連れて行く度に重い課題を突き付けられる状況でした。

センター内での訓練は，様々な環境に馴れさせるため，日中は事務室内や来客の見える場所で過ごさせたり，また，幸い隣地が小学校の校庭であったため，昼休みに校庭で遊ぶ児童をフェンス越しに見させるなど，人と環境に馴らす訓練を根気強く続けてきました。

こうした取組により，徐々に改善がみられてきたため，譲渡犬の情報に掲載し，何組かにお見合いをしていただいたのですが，初対面だと吠えかかってしまい，お見合いは失敗続きでした。そのため，職員も心が折れてしまい，譲渡情報から一旦掲載を取りやめてしまったのです。

それから暫くして，昨年12月に突然，半年前の譲渡会でこの犬を見かけて，ずっと気になっていたという方が，譲渡情報からこの子が消えたので譲渡されてしまったのか心配になってお電話をくださりました。この1本の電話でこの子の第二の人生がスタートしたのです。

このご夫婦が，お見合いに来てくださったときは，お二方とも穏やかな方でこの子も波長が合ったのか，全く吠えることがなく，今までのお見合いとは全く雰囲気が異なりました。センターでも，この子の性質を良く理解していただくために，慎重を期して，夫婦には何度も足を運んでいただき，2週間のトライアルスタートの際も，トライアル前に自宅の環境に馴らすために，この子を連れて行き，短時間のトライアルを実施し，大丈夫だと判断した上で2週間のトライアルをスタートしました。トライアル中は，数日で夫婦に心を許した状態で，リビングの夫婦の傍でくつろいでいたようです。

今年2月に無事に譲渡となり，1ヶ月後のしつけ方教室でお連れいただいた際は，表情も穏やかになり，歯をむき出して吠えていた姿が嘘のように尻尾を大きく振る愛らしい子に変貌し理想的な飼い主に出会えたことを皆で感激していました。

飼い主と環境によって，こんなにも変わるものだと再認識させられた理想的な譲渡でした。

センターに収容中の犬猫の里親さんを募集中！

収容された犬猫のうち，譲渡適正があると判断された子について，新しい里親さんを募集しています。譲渡を希望される方は，センターホームページで譲渡の流れ及び里親の基準をご確認の上，センターで犬猫とお見合いをしていただいております。お見合いは，譲渡会のように決められた日時のなかで行うのではなく希望者の都合に応じて都度開催することで，少しでも新しいご縁につなぐ機会が増えるよう努めています。

詳細は右のＱＲコードを御参照ください。

動物愛護の普及啓発活動について ①

【動物ふれあい教室】

動物の命を大切にする心を育み，動物を飼うことの自覚と責任の重さを学習することを目的とし，市内小学校に保護犬同伴にて出向き「動物ふれあい教室」を開催しています。

犬とのふれあい，「ハートソナー（水戸東ロータリークラブ寄贈）」による人と犬の心音の聞き比べ，動物愛護に関する紙芝居などを行っています。また，高学年の児童については、無責任な飼い主にならないために必要なこと，収容される犬猫を減らし殺処分をなくすためにどうしたらよいかなど，適正飼養に関する内容に重点を置いています。

低学年の児童は，犬に触れたことがない子も多く，最初は怖がっていた子も，「毛が柔らかい」，「温かくて気持ちいい」，「かわいい」と素直な感想を述べながら，犬を身近に感じていただくことができました。併せて，かわいいだけではペットは飼えないこと，最後まで世話を続けることができない場合はペットが不幸になるので飼ってはいけないことを説明し，飼うことの責任の重さを学んでいただきました。

参加した児童からは，「命の大切さを知った」，「動物にとって優しい人になりたい」，「犬を飼ったらちゃんとお世話をしたい」等の感想をいただきました。

この子たちが大人になった時は，動物愛護センターに収容されてしまう不幸な犬猫がゼロになっていることを期待しています。

動物愛護の普及啓発活動について ②

【動物愛護街頭キャンペーン】

令和6年5月3日（金）に，水戸の中心市街地において，4年ぶりとなる「水戸まちなかフェスティバル2024」が開催されました。

当日は天候にも恵まれ，公式発表によると約72,000人の方に御来場いただいたようです。

当センターにおいても，市民への動物愛護の意識の普及啓発と適正飼養の推進を図るために，水戸南ライオンズクラブの出展ブースにおいて，同クラブ会員や茨城県獣医師会，茨城県動物愛護推進員の皆様と一緒に，啓発活動を行いました。

特に人気だったのが，茨城県獣医師会にご用意いただき，小さいお子さんに無料配布を行った腕に巻くことができる犬猫等の動物の風船でした。「僕のワンちゃんと同じワンちゃんがいい」，「ネコちゃんがかわいい」と次々と受け取りに来ていただき，中にはどれにするか決めかねてずっと考えこんでしまう子もいましたが，受け取ったときの笑顔は皆一様で，動物好きの子どもがたくさんいることを実感しました。

この子たちが，大人になって，動物がかわいいだけではなく，命の大切さと飼うことの責任の重さをしっかりと認識して，適正な飼い主となってくれれば，犬猫たちを取り巻く環境も大きく変わることでしょう。

声掛けした「ワンちゃん，ネコちゃん大事にしてね」の言葉をずっと覚えてくれることを願っています。

モデルについて

ワンニャンきずなカードのモデルとなった保護動物達を紹介させていただきます！
バージョン３は仔犬と仔猫についてです。
なお各カードはシリアルナンバー入りで，御寄附いただいた貴方様だけのものとなっています。

「ワン🐩」　センターでの愛称：チーノ
生後約３ヶ月の子犬の時に，３匹の兄妹と一緒に保護されました。陽気で賢い男の子です。譲渡後は元気すぎて飼い主さんを困らせてしまうこともあるようですが，センターのしつけ方教室に参加するなど，飼い主さんと一緒にトレーニングを頑張っています。

シリアルナンバー

シリアルナンバー

「ニャン🐈」
まだ目も開いていない，生後数日の赤ちゃん猫の時に捨てられていた５匹のうちの１匹です。乳のみの子猫は抵抗力が弱く，病気になりやすいのですが，幸い全頭元気に成長し，もう１匹の兄弟猫と一緒に無事譲渡することができました。

センターの一コマ

譲渡されるまでの間，環境や人に慣れるよう様々な取組を行っています。
写真は散歩訓練中の子犬たちです。散歩が得意になっていく姿をご覧ください。

編集後記

みとちゃん

今後も，動物愛護センターの業務内容や職員の思いが伝わるよう，様々な情報を発信してまいります。
過去のきずなだよりは，当センターのホームページに掲載しておりますので，右のＱＲコードを読み取り，御参照ください。